

令和5年11月6日

筑紫野市議会

議長 赤司泰一様

会派 市民会議

報告者 上村和男

令和5年度 会派市民会議 研修報告書

参加した研修について、下記のとおり報告します。

記

1. 日 時

令和5年10月10日（火）から 10月12日（木）2泊3日

2. 研修先及び研修項目

JIAM 全国市町村国際文化研修所

「人口減少社会における議会の役割」

- 10日
 - ①地方行政の現状と課題～2040年を見据えて～
 - ②子育て世代に選ばれるまちとなるために
- 11日
 - ③わがまちのありたい姿（ビジョン）を考える
- 12日
 - ④人口減少社会における議会の役割

3. 研修者

春口茜

令和5年度 市町村議会議員研修 [3日間コース]

人口減少社会における議会の役割 報告

【研修目的】

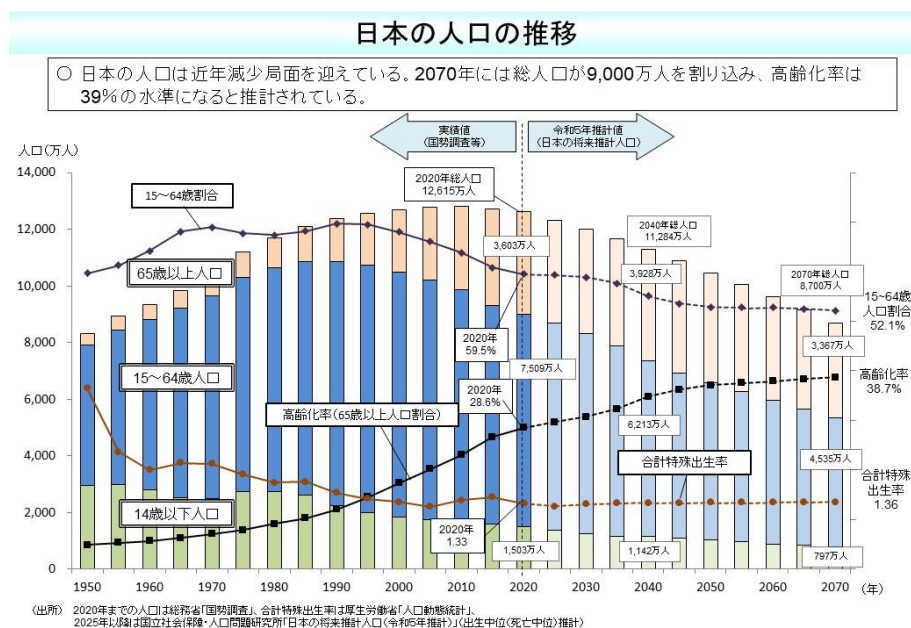
人口減少に伴い、地方自治で生き残れるかが問われている。いくつになっても住み続けたいと思う街、子どもを産みたいと思う人が安心して出産し、子育てできる街をつくるため。

【内容】

①地方行政の現状と課題～2040年を見据えて～

日時 10月10日（火） 13時から15時15分

講師：金崎健太郎さん 武庫川女子大学教授



・平成期における地方行政【地方分権】【市町村合併】

国と地方公共団体の関係を『上下』→『対等・協力』へ

・コロナ禍への対応

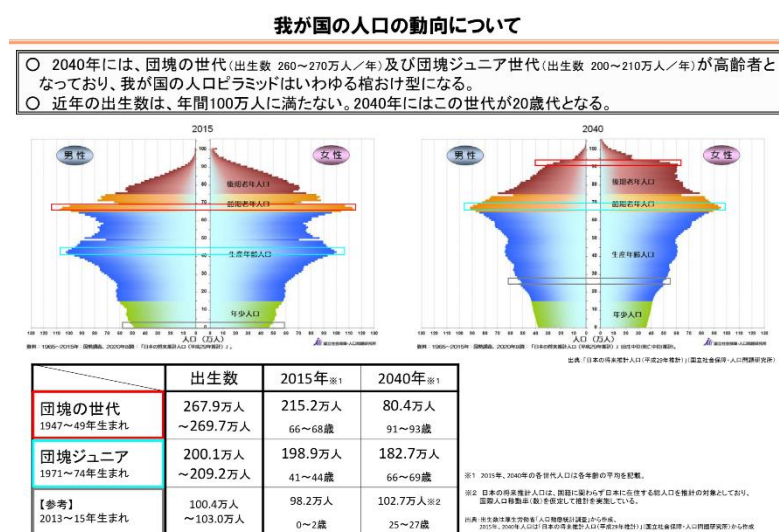
コロナ禍への対応が現在の国力を示している

・国が果たす役割と地方が果たす役割を再確認しなくてはならない

・人口縮小時代のパラダイムへの変換が必要 (AI・ロボティクス等)

・地方圏の圏域マネジメント力、圏域単位で行政を進めること

・デジタルトランスフォーメーション



②子育て世代に選ばれるまちとなるために

講師：広瀬慶輔さん 大阪府寝屋川市長 日時 10月10日(火) 15時~17時

大阪府寝屋川市から学ぶ地方のブランディング、マーケティング

・何もないところから1を作り出す

・『いじめ0』を徹底

・大阪府のベッドタウンとして駅近に担税力のある子育て世代を呼び込む

・図書館を今までのありきたりな図書館ではなく、マーケットを広くするため、『3rdプレイス』として居心地の良い空間として提供

結果→日本全国住みたいまちランキング5位に



③わがまちのありたい姿（ビジョン）を考える

日時 10月11日（水） 9時～17時

講師：倉阪秀史さん 千葉大学大学院社会科学研研究院

・各自治体の統計データを用いて地域の未来を予測した『未来カルテ』からの気づきや将来のありたい姿を議論

筑紫野市のミニ開発や都市計画の予測がなかったため、留意して取り組んだ。

グループでは同じ自治体規模の議員とディスカッションした。

富士見市の人口推移を参考に、空き家活用についてや認知症予防などの提案等が出た。

④人口減少における議会の役割

日時 10月12日（木） 9時25分～12時

講師：牛山久仁彦さん 明治大学政治経済学部教授

- ・地方分権と自治体議会を取り巻く環境の変化
- ・2008年をピークに人口減少局面に突入、2060年には1億人を切る見通し
- ・『VUCA』の時代→柔軟な対応力の必要性
- ・市民に見えにくい議会の姿、低い投票率→自治体議会改革の必要性
- ・ジェンダーバランスの著しい不均衡
- ・調査期間の設置
- ・大学等との協力による調査研究などを視野に入れる
- ・一問一答方式の導入

【まとめ】

政策立案はこれまで、行政が企画、立案することが当然視されてきたが、現在では議会が質問、要望を通して住民ニーズを加味し政策を方向づけしている。

マネジメント力を確立し、『民主主義の学校』という地方のあり方を位置付け、市民が主権を持ち、市民の手で、市民のために行う見える政治をすることで活気のあるまちづくりを目指したい。ジェンダーギャップ指数を高くし、政治参画のハードルを下げるのが今後の議会で期待されるだろう。

以上

春口あかね